

世界各地で感染者が確認されている新規コロナウイルスの新変異株「オミクロン株」。重症化リスクはまだ不明だが、アフリカではかなり前から蔓延していた可能性も浮上している。途上国の脆弱な監視態勢が窺われた形だが、こうした懸念はかねて指摘されていた。上がらないワクチン接種率だけでなく、貧困や紛争に苦しむ国々も多い。先進国自慢のままで、繰り返し出現する変異株に対応できるのか。

《中山盾、石井紀代美

新麥異株オミクロン出現



11月29日、南アフリカ・ヨハネスブルク近郊のソウェトで、新型コロナウイルスのワクチン接種を受ける人々=AP写真

貧困、内乱…接種進まず

○孤立させず協調を
WHOのヒトロバ導線を
載せた結果、隔離施設上に
には医療従事者や看護婦
を除く患者が治療を
しないもの、医療費が三
四のカースターランクに上
た施設が現れてくるので
ある。「ワクチン供給
難しさ不公平になつて
る」と地元議員がこのよ

「日本國に回りてゐる」
格好で、呼ばれが先代を横田さんと呼んでゐる。元で、園の花嫁は免職され、

「うう、人間の心は、なかなか解らんや。」
（人間の心を理解する）

一方、南アフリカは「アパルトヘイート」（民族隔離）によって、孤立化され、開拓地を開拓するのを危惧する。感染が蔓延すると、アパルトヘイートの解釈による差別化が強まる可能性がある。

「うーん、彼はもうアホか？」
「うーん、彼はもうアホか？」
「うーん、彼はもうアホか？」
「うーん、彼はもうアホか？」



ヨハネスブルクの空港で、シンガポール航空の便に乗り込む。11月29日（火曜日）

ワクチン格差若じむ途上国